

(54) GRAIN BAG WITH HANDLE

(11) 4-311457 (A) (43) 4.11.1992 (19) JP

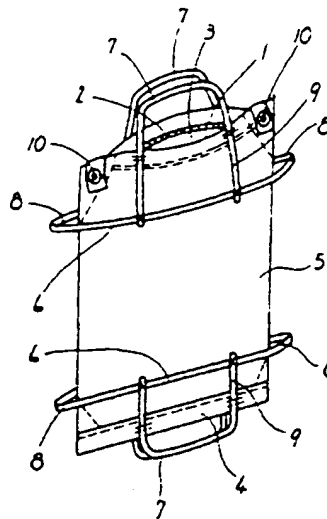
(21) Appl. No. 3-66743 (22) 29.3.1991

(71) ISEKI & CO LTD (72) TOMIKIYO YAMASHITA(2)

(51) Int. Cl⁸. B65D33/06, B65D30/10

PURPOSE: To absorb the weight generating when raising the handles without affecting cloth texture of a grain bag with the handles and prevent the texture from loosening.

CONSTITUTION: A grain inlet 3 fitted with a fastener 2 is made at one side of a bag as an opening 1 and a bottom 4 is closed at the other side to constitute the bag 5. And a reinforced lateral belt 6 laterally wound at the near position of at least the bottom 4 of the bag 5 is provided and handles 7 fitted to the reinforced lateral belt 6 are protruding outward from the bottom 4 side to constitute the grain bag with handles.



THIS PAGE BLANK

特開平4-311457

(43) 公開日 平成4年(1992)11月4日

| | | | | |
|---------------------------|------|-----------|-----|--------|
| (51) Int.Cl. ³ | 識別記号 | 庁内整理番号 | F I | 技術表示箇所 |
| B 6 5 D 33/06 | | 6916-3E | | |
| 30/10 | | F 9146-3E | | |

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平3-66743

(22) 出願日 平成3年(1991)3月29日

(71) 出願人 000000125

井関農機株式会社

愛媛県松山市馬木町700番地

(72) 発明者 山下 登清

愛媛県伊予郡砥部町八倉1番地 井関農機株式会社技術部内

(72) 発明者 渡辺 喜則

愛媛県伊予郡砥部町八倉1番地 井関農機株式会社技術部内

(72) 発明者 廣田 幹司

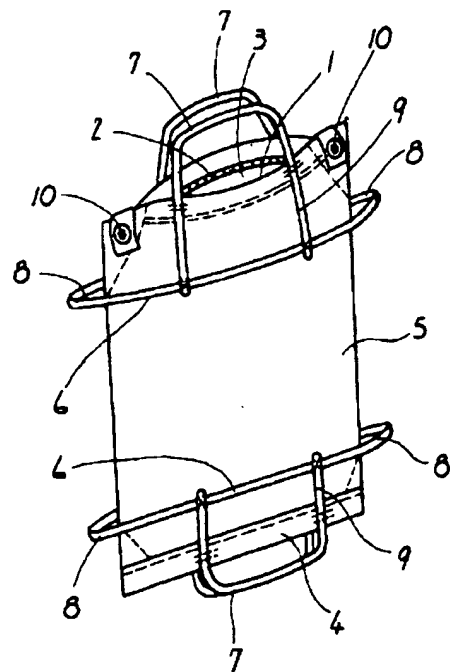
愛媛県伊予郡砥部町八倉1番地 井関農機株式会社技術部内

(54) 【発明の名称】 把手付き穀粒袋

(57) 【要約】

【目的】本発明は、把手付き穀粒袋に関し、把手を持ち上げたときに発生する重量を袋地に影響させずに吸収し、袋地の目ずれ防止を図らんとするものである。

【構成】一方を開口1してファスナー2を取付けた穀粒供給口3とし他方を閉塞して底部4とした袋5を構成し、該袋5の少なくとも底部4に近い位置に横方向に巻きつけた補強横帯6を設け、該補強横帯6に取り付けた把手7を底部4側より外方に突出して構成した把手付き穀粒袋である。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】一方を開口してファスナーを取付けた穀粒供給口とし他方を閉塞して底部とした袋を構成し、該袋の少なくとも底部に近い位置に横方向に巻きつけた補強横帯を設け、該補強横帯に取り付けた把手を底部側より外方に突出して構成した把手付き穀粒袋

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、穀粒袋に関し、コンバイン、ハーベスター、脱穀機等の作業にあたり穀粒を収納するために利用する。

【0002】

【従来の技術】従来の把手付き穀粒袋は、底部側や穀粒供給側に紐状の把手を取り付けたものがあった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上述した従来タイプは、袋に穀粒を充填して把手を持ち上げると、袋の重量の全部が把手の取付け部分にかかり、その部分の袋地が目ずれがおこっていた。穀粒袋は、一部分に目ずれが発生すると、そこから破れが広がり袋としての役目が果たせなくなってしまう。

【0004】そのために、従来では、穀粒袋の下部を折返して縫い付けて底部とし、その幾重にも重なった折返し部分に把手の端部を縫い付けて丈夫にする工夫がされていた。この種把手付き穀粒袋は、把手を持ち上げたときに発生する重量を如何に袋地に影響させずに吸収できるかが重要な課題である。

【0005】

【課題を解決するための手段】この発明は、上述の如き目的を達成するために、次の如き手段を用いるものである。すなわち、一方を開口1してファスナー2を取付けた穀粒供給口3とし他方を閉塞して底部4とした袋5を構成し、該袋5の少なくとも底部4に近い位置に横方向に巻きつけた補強横帯6を設け、該補強横帯6に取り付けた把手7を底部4側より外方に突出して構成した把手付き穀粒袋である。

【0006】

【実施例】まず、その構成について説明する。袋5は、合成樹脂材、布などの柔軟な材質を用いた円筒状の素材を所定寸法に切断して一方を開口1し、他方を縫って底部4とした構成としている。そして、ファスナー2は、開口1に取り付けてこの部分を穀粒供給口3とし、開閉自由に構成している。

【0007】そして、補強横帯6は、図1に示すように、上記袋5の穀粒供給口3及び底部4から少し隔たった位置に横方向に巻き付けて所々袋地に縫い付け、その両側の袋5から側部にはみ出した位置に横把手8を形成している。把手7は、帯材9を用いて端部を前記補強横

2

帯6に取付け、穀粒供給口3側と底部4側とにそれぞれ前後一対づつ配置している。そして、帯材9は、上記のとおり補強横帯6に端部を取り付けて中間部分をそれぞれ袋5の折返し部分に縫い付けて設けている。

【0008】10は鳩目を示し、コンバインや脱穀機の袋支持杆に挿通するための挿通孔である。次に、帯材9は、図2に示す構成にあっては、袋5にタスキ状に配置してその中央部分と端部とを袋地に縫付け、袋の四角外側に把手7を構成している。次にその作用について説明する。

【0009】まず、袋5は、穀粒供給口3から穀粒を充填してファスナー2を閉じ、把手7を握って持ち上げて運搬する。この場合、穀粒を充填した袋5は、圃場から畦際に横づけされたトラックへ、そして、そのトラックから乾燥施設へ運ぶときに把手7を持って持ち上げながら行なうものである。

【0010】袋5は、把手7を握って持ち上げると、上に持ち上げようとする力に抗して重量が下方に働き上下に引き裂くような力が発生する。このとき、上下の把手7を持った場合には、上述の力は、補強横帯6に大部分が受けられ一部が袋5端部の折返し部で受けられることになる。したがって、袋地は、把手7の帯材9を直接袋地に縫付けた構成に比べて袋地の目ずれを起こすことがない。

【0011】そして、袋5は、横側に突出させて設けている横把手8を握れば持ち運びが更に便利となるが、この場合も、持ち上げ力は、袋地に影響することはない。また、図2に示す構成にあっては、穀粒を充填した袋5を持ち上げる場合、対角線上にある把手7を握って持ち上げると、帯材9は、一本が袋5の両面に配置されて連続している構成であるから、持ち上げ力を袋地にほとんど影響を与えない状態で吸収できる。

【0012】

【発明の作用効果】本発明は、穀粒袋に把手を取り付けるにあたり袋に設けた補強用の横帯に帯材に取り付けて把手を構成しているから、把手を握って袋を持ち上げたとき袋地に引き裂くような力が働くことが少なく、目ずれを未然に防止できる特徴がある。

【図面の簡単な説明】

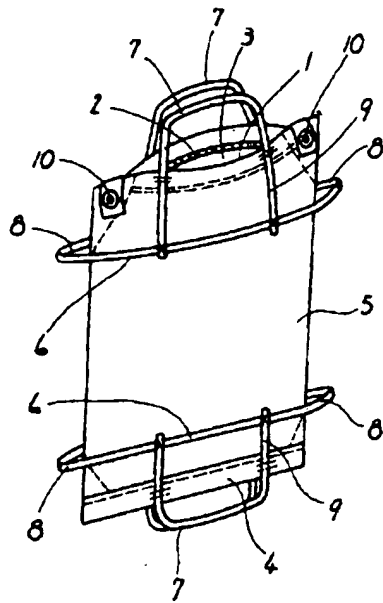
【図1】本発明に係る穀粒袋の斜面図である。

【図2】本発明の別実施例の斜面図である。

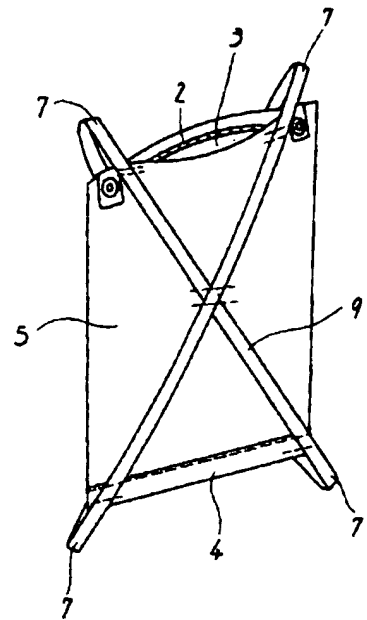
【符号の説明】

| | | | |
|------|---------|---------|-------|
| 1 開口 | 2 ファスナー | 3 穀粒供給口 | 4 底部 |
| 5 袋 | 6 補強横帯 | 7 把手 | 8 横把手 |
| 9 帯材 | | | |

【図1】



【図2】



THIS PAGE BLANK (USPTO)